



世界遺産を有する 宗像藻場再生プロジェクト



申請者：宗像ブルーカーボン推進協議会、福岡県ブルーカーボン推進協議会
プロジェクトエリア：宗像沿岸域（鐘崎、神湊、地島、大島）の19.08ha

地域の概況と課題



宗像市沿岸域は世界遺産に指定された「沖ノ島」を有する歴史ある海域であるとともに、ここで獲れる天然わかめが毎年皇室に献上されるなど豊富な海藻や磯根資源を持つ海域でもあります。しかし、近年ウニによる食害が顕著であり磯根資源の枯渇が懸念されています。



[ウニの食害による磯焼けした海]

プロジェクトの概要

漁業者による継続的なウニ駆除活動を実施するとともに、市民、市内外の事業者、教育機関と協力し、豊かな海を次世代に引き継ぐための環境教育、海岸清掃、藻場増殖試験など、様々な藻場保全・再生活動を行っています。



[漁業者によるウニ駆除活動]

特徴・PRポイント



[漁業者による出前授業]



[市民、事業者等による海岸清掃]

再生・維持された藻場は、ブルーカーボンといった脱炭素の側面だけでなく、**水産物の食料供給、水質浄化、教育機関での出前授業といった環境学習の場の提供など多様な価値**を有しています。

今後も、ウニ駆除活動を継続するとともに、あらゆる側面から藻場を育てる取組に積極的に挑戦することで、**持続可能な漁業振興と脱炭素社会への貢献**を目指します。



[藻場増殖試験]



[漁業者と小中学生による藻場増殖試験]

食料供給、水質浄化価値の増加（コベネフィット）

本プロジェクトによる、藻場における食料供給と水質浄化の価値として、年間790万円程度の経済価値があると評価※されました。

食料供給	アワビの生産量が年間約0.7t 増加 サザエの生産量が年間約3t 増加
水質浄化	藻場の生物によるCOD浄化量が年間約800kg増加

※市場価値法、代替法による推計

